

## MCS ハートフル A 株式会社さいたまセンター

### 第 6 回 第三者委員報告会 議事抄録

開催日時 令和 2 年 6 月 4 日 木曜日 16 時 30 分～17 時 45 分

開催場所 Zoom による遠隔開催

参加者 阿部和正委員、富田文子委員、渡邊 寛委員、  
小松 充メディカル・ケア・サービス株式会社取締役総務部長、  
今野雅彦施設長(MCS ハートフル A 代表取締役社長)、  
横島 昇 総務グループ課長、岡田久留美 副施設長、以上 7 名

#### 式次第

##### 1.開会挨拶 小松 充 MCS 取締役総務部長

- ・ コロナ過の中で、幸いにして一人の感染者も出さずにここまでこれたことは素晴らしい。MCS の本社も含めてリモートによる在宅勤務も今後は当たり前のように行われるのではないかと。先ずは出来ることわかる段階から、今後にどのように活かすことができるのか、成果が問われることになる。
- ・ 障害者雇用においても、リモートでの在宅勤務が可能となることで、通勤に難のある人も働く可能性が広がるし、それに伴い採用の幅も広がるのではないかと。
- ・ 今後、MCS ハートフル、MCS ハートフル A に対する期待はますます大きくなることは間違いないので、私としてもしっかりと支えて参りたいし、第三者委員の皆様方にも引き続き、ご指導を賜りたい。

##### 2. 新任挨拶 岡田久留美 副施設長

- ・ 埼玉県内の特例子会社で 15 年間障害者雇用に携わり、障害者とともに働く喜びを味わいたいということで、5 月 1 日から副施設長として勤務することになった。宜しく願いしたい。

##### 3.報告事項

- ・ 今野から、資料に基づいて、MCS ハートフル A の第 4 期(令和元年 9 月～令和 2 年 8 月)の上半期(2 月まで)を踏まえた事業報告、収支報告を含めて、就労継続支援 A 型事業所としての活動内容(サービス内容、訓練の様子、その他)及び苦情・相談内容について、詳しく説明した。  
特に、新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大防止対策について詳しく説明した。

#### 4.質疑応答

- 各委員からは、新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大防止対策について発言が集中した。発言の要旨は下記の通り。
- 素晴らしい取り組みをいち早く行い、在宅勤務の取り組みが短時間で出来たことについては感動に値する。
- 学研のドリルを使用したということであるが、目標なり、理由なりを明確にするなど実施する意図を発信することが大事だ。（平時にはできない形での能力開発やアセスメントの一つの形として、得られた結果から次々と対応を変えてきた、との説明を受けて）A型の利用者とはいえ、成人した従業員であるので、単にドリルを行うということではなく、行う意義を支援員全体に浸透させることを続けてほしい。
- トイレなり、お風呂なり、家事を手伝うことにより、まずは技術の実践（継続）と同時に家庭における役割の獲得を意識させることが大切である。MCSハートフルAでのモデルを通じて、技術の向上などに至るよう本人も意識できればよいと思う。
- SPIS関係者やダンウェイさんの協力を得て、MCSハートフルの多様な取り組みの中から他企業や事業所間の連携を維持して、企業における雇用がキープされることは大変意義深いことであると思う。孤立しがちな雇用現場に対して新しい働き方を模索することができるのではないか。
- 巷ではリモートによる在宅勤務が行われていることは知っているが、MCSハートフルAのパートナーが在宅勤務ができるとは全く想像していなかったので驚いている。多方面から手厚い対応がされている。
- 感染拡大防止のための具体的な防疫対策についても引き続き取り組んでほしい。（口腔ケアの取り組みも、防疫対策に資することを感じている。）
- 雇用調整助成金の申請に取り組む中で、障害者の研修を対象とした加算部分の取り組みについて、大いに参考になった。
- 通勤に対する配慮について、報告の中から公共交通手段から自転車等に変える人もいることが分かったが、通常と違った、慣れない手段により交通事故に巻き込まれる事例も見られることから、MCSハートフルAの皆さんにはくれぐれも気を付けてほしい。
- 雇用調整助成金の対応をする中では、休業から廃業に追い込まれる事業所も出てきている。MCSハートフルAの場合には安定した雇用が継続されており、ご家族からも安心感をもって見守られているのではないか。

以 上